卒業論文の要旨

論文題目	「ワーナー　ブラザース　スタジオツアー東京-メイキング・オブ・ハリー・ポッター」の博物館的要素について
氏名	西下　郁
メジャー	博物館学専攻

（要旨）

「ワーナー　ブラザース　スタジオツアー東京-メイキング・オブ・ハリー・ポッター」（以下「スタジオツアー東京」）が、東京池袋にある「としまえん」跡地に 2023 年 6 月 16 日オープンした。筆者はさっそく、エンターテインメント施設とされるスタジオツアー東京に行ってみたが、展示方法や運営の在り方が博物館や美術館のように感じた。本論では、在学中に学んだ博物館概論の博物館の定義をはじめ、博物館展示論、博物館教育論など博物館学の理論に基づいて「スタジオツアー東京」を分析し、何故そこが博物館や美術館のように感じたのかを考察した。

まず、博物館の定義や社会的位置付けを検討し、どのような要素を持っていれば博物館といえるのかを確認した。そして、「スタジオツアー東京」の社会的位置付けや運営の様子を調べ、博物館のどのような要素と共通性があるのかを分析した。所在する練馬区には、もともと映画制作に関わる施設が存在し、練馬区の地域活性化につながる点があり、4 つある博物館の社会的位置付けのうち、文化的政策シンボルを除く 3 つが該当すること、4 つの博物館機能のうち、調査研究を除く 3 つの機能があることがわかった。

次に、「スタジオツアー東京」の展示順路に沿って、展示内容と各部屋に見られる特徴を調べた。展示物とその照度のあり方、体験展示による学習的効果のほか、野外展示、音声ガイドなど、博物館にも見られる特徴が散見された。最後に、 国内の関連する「魔法」の展示をする施設を調べ、「スタジオツアー東京」と比較した。同じ「魔法」というキーワードからできた施設でも、「スタジオツアー東京」とは全く違う資料や方法で展示していることが確認され、その分析をした。

その結果、「スタジオツアー東京」は、施設の社会的位置づけや基本的機能、展示の方法や留意点などの重要な博物館的要素をいくつも有していることが確認され、「ハリー・ポッターの博物館」としての要素も兼ね備えていると言うこともできるのではないかとの結論に達した。

（指導教員の推薦のコメント）

1983 年に開園した東京ディズニーランドを皮切りに、国内にはテーマパークが続々と設置されてきた。テーマパークはレジャー目的のエンターテインメント施設として、博物館は社会教育機関として展開しているが、展示・ディスプレイという点に注目すれば、実は共通項が多く、技術的にはむしろテーマパークの方が進んでいる。

ハリー・ポッターの大ファンである筆者は、その点に注目し、エンターテインメント施設として昨年（2023 年）、東京都豊島区に「スタジオツアー東京」がオープンすることに着眼し、その施設が博物館学的に持つ意味を検討しようと試みた、オリジナリティーの高い卒論である。開設されたばかりの施設であるため、得られる情報量は限られていたが、都内や大阪にある「魔法」をテーマとする類似施設についても現地調査を重ね、「スタジオツアー東京」の展示に関しては、自ら計測等を行ってデータを取りまとめた力作と言える。